

令和 2 年度 第 4 回緩和ケア・在宅医療部会 議事要旨

日 時：令和 3 年 2 月 24 日(水) 16:10 ~17:30

場 所：琉球大学病院がんセンター(ZOOM 会議)

出席者 10 名：笹良剛史(豊見城中央病院)、屋良尚美(県立中部病院)、三浦耕子(県立中部病院)、中島信久(琉大病院)、中村清哉(琉大病院)、友利あかね(琉大病院)、足立源樹(那覇市立病院)、名嘉眞久美(がん患者会連合会)、朝川恵利(宮古病院)、増田昌人(琉大病院)

欠席者 3 名：野里栄治(北部地区医師会病院)、酒井達也(八重山病院)、喜屋武隆也(沖縄県健康長寿課)

陪席者 2 名：有賀拓郎(琉大病院)、内間みなみ(琉大病院)

報告事項

1. 令和 2 年度 第 3 回緩和ケア・在宅医療部会 議事要旨

資料 1 に基づき、令和 2 年度第 3 回緩和ケア・在宅医療部会議事要旨が承認された。

2. 令和 2 年度緩和ケア・在宅医療部会、研修 WG、在宅 WG 委員名簿一覧

資料 2 に基づき、令和 2 年度緩和ケア・在宅医療部会、研修 WG、在宅 WG 委員が確認された。

3. 令和 2 年度 緩和ケア研修会開催日程について

資料 3 に基づき、令和 2 年度緩和ケア研修会開催日程一覧が確認された。

4. 令和 2 年度第 3 回緩和ケア・在宅医療部会在宅ワーキング議事要旨

資料 4 に基づき、笹良部会長より報告があった。

5. 令和 2 年度第 4 回緩和ケア・在宅医療部会研修ワーキング議事要旨

資料 5 に基づき、笹良部会長より報告があった。

6. 令和 2 年度 沖縄県緩和ケア研修会の報告書について

①県立中部病院(第2回)

資料6に基づき、三浦委員より第2回緩和ケア研修会について報告があった。参加者は19名(医師15名、看護師3名、理学療法士1名) コロナ対策も実施し、問題なく終えることができたとのことだった。

②那覇市立病院(第3回)

資料7に基づき、足立委員より第3回緩和ケア研修会について報告があった。参加者は院内の10名(医師7名、看護師3名)で開催した。講師の代役を予め考えておくことも必要だと感じたという報告があった。

7. 患者の意向を尊重した意思決定のための研修会（E-FIELD）について

資料8に基づき、笹良部会長より E-FIELD について報告があった。九州・沖縄地区では 2020 年 12 月 13 日(日)に WEB 開催され、沖縄からは 3 施設チームで参加したという報告があった。神戸大学から結果が届き次第報告することとなった。

8. 群星沖縄臨床研修センター意思決定支援講習会について

資料9に基づき、笹良部会長より報告があった。2021年2月27日(土)にWEB開催をする。参加者は15名を予定している。内容はE-FIELDを一部引用し、SHAREのガイダンスなどを実施するという報告があり、2名程ファシリテーターの補助をお願いしたいという協力依頼があった。

9. その他

特になし

協議事項

1. 今年度の事業計画進捗について

資料10に基づき、増田委員より緩和ケア推進ロジックモデルについて説明があった。最終アウトカムの【指標番号2】患者体験調査①身体的痛みのある患者の割合（「がんやがん治療に伴う体の苦痛がある」に対し「とてもそう思わない/ある程度そう思わない」と回答した患者の割合）が全国55.4%、沖縄66.4%となっており、青で標記しているのは、沖縄の方が良い場合。赤で標記しているのは悪い場合という説明があった。

2. 来年度の事業計画について

増田委員より、資料10を参考に来年度、緩和ケア在宅医療部会で何をするか部会委員で検討して頂きたいという報告があった。

3. 痛みのスクリーニングと結果のフィードバック及び主治医（チーム）の行動変容について

①琉球大学病院

資料11に基づき、友利委員より報告があった。今年度は前年度と比べて除痛率は徐々に上昇しており、成果は上がってきている印象を受ける。今年度の平均除痛率は目標 70.1%をクリアできず、もう少しの 69.6%であり、今後もリンクナースと連携して活動を推進していきたいという報告があった。課題として、外来看護師において意識に温度差があることから、スクリーニングの必要性や効果等を説明し推進を図っているとのことだった。

笹良部会長より、外来化学療法室での実施件数が多いが、そこで聴き取りを行っているのかという質問があり、友利委員より、化学療法室では業務の中にスクリーニングを取り入れているので定着しているという回答があった。

②那覇市立病院

資料12に基づき、足立委員より報告があった。4~5割の患者が痛みを有している状況だったが、除痛率は8~9割で維持できている。日常生活レベルでみると、「安静時に痛みなし」

と「体動時に痛みなし」との格差が見られ、安静を強いられている状況が予測されるという報告があった。引き続き、痛みのスクリーニング要請から迅速な鎮痛薬の開始と調整を意識して行えるよう啓蒙していくとのことだった。

③県立中部病院

資料13に基づき、屋良委員より報告があった。スクリーニングの実施率は入院、外来とも横ばいである。患者サイドから何回も聞かないでと言われることも多く、各病棟におけるリンクナースが力をつけることや、患者サイドの意見を別な方法で聴きとっていかなければいけないという報告があった。今後、スクリーニングの結果からケアを繋げられるようリンクナース・緩和ケアチームとの強化を図っていくとのことだった。

足立委員より、除痛率の結果報告等は病院全体へアナウンスしているのかという質問があり、屋良委員より中部病院は病院全体へはアナウンスしていないという回答があった。

友利委員より、琉大病院は毎月リンクナース委員会で資料11のようなデータをフィードバックしてリンクナースから病棟の方へフィードバックする様に伝えている。また、年2回師長会でも報告している。診療科に伝わっているかは不明な点であるという報告があった。

笹良委員より、全てのスタッフがスクリーニング実施を認知できるような取り組みを課題としていきたいという意見があった。

④友愛医療センター・豊見城中央病院

次回報告となった。

4. PCU転院相談の際の相談外来受診ならびに転院までの所要日数に関する情報の一覧作成について

資料15に基づき増田委員より、運用についての説明があった。与勝病院、沖縄病院、アドベンチストメディカルセンター、オリブ山病院、沖縄赤十字病院、豊見城中央病院の担当者がPCUの状況を資料15の表に入力して、がんセンター事務局までメールで送って頂く。がんセンターは各施設から回答が来たら、順次がんじゅうネットに掲載していくという説明があった。

協議で以下の事が決定した。

- ・3月5日(金)までにPCU施設への協力依頼文書の雛型を笹良部会長が作成
- ・3月8日(月)に協力依頼文をがんセンター事務局から部会委員へメールにて共有し、修正等あればがんセンター事務局まで連絡を頂く。締切は3月12日(金)
- ・部会委員の意見を頂戴した上で3月16日(火)に決定する
- ・3月22日(月)までには6つのPCU施設の病院長宛に依頼文を発送する

5. 次回令和3年度第1回緩和ケア・在宅医療部会の日程について

後日、調整さんにて日程調整をすることとなった。

6. その他

増田委員より、今年度の琉大主催の緩和ケア研修会について、第一候補：9月18日(土)、第

二候補：9月25日(土)で場所は沖縄県医師会館を予約しているという報告があった。

笹良委員より、日本緩和医療学会学術大会が2021年6月18日(金)、19日(土)にハイブリット方式で開催されるという報告があった。また、第3回日本緩和医療学会九州支部学術大会の開催も予定している。対面方式とWEBでの併用を検討しており、詳細が決まり次第、進捗報告をするとのことだった。

第3回沖縄県がん診療連携協議会緩和ケア在宅医療部会 在宅ワーキング議事要旨

日 時：令和2年12月23日（水）17：30 ～ 19：25

場 所：ZOOM（WEB会議）

出席者：11名 喜納美津男（きなクリニック）、朝川恵利（宮古病院）、宮城愛子（訪問看護ステーションアレグリア）、笹良剛史（豊見城中央病院）、成田奈緒子（北部地区医師会病院）、嶺井朝美（北部地区医師会病院）、長野宏昭（中部病院）、金城隆展（琉大病院）、吉澤龍太（那覇市立病院）、大上永利子（八重山病院）増田昌人（琉大病院）

欠席者：2名 徳盛裕元（すまいるサポート株式会社）、荷川取尚樹（花あかり合資会社）

陪席者：2名 有賀拓郎（琉大病院）、内間みなみ（琉大病院）

報告事項

1. 令和2年度 第2回緩和ケア・在宅医療部会在宅ワーキング議事要旨

資料1に基づき、令和2年度第2回緩和ケア・在宅医療部会在宅ワーキング議事要旨が承認された。

2. 令和2年度 第2回緩和ケア・在宅医療部会議事要旨

資料2に基づき、朝川委員より令和2年度第2回緩和ケア・在宅医療部会議事要旨について報告があった。

3. 令和2年度 第3回緩和ケア・在宅医療部会研修ワーキング議事要旨について

資料3に基づき、朝川委員より令和2年度第3回緩和ケア・在宅医療部会研修ワーキング議事要旨について報告があった。

4. 令和2年度緩和ケア在宅医療部会/在宅WG/研修WG 委員名簿一覧

資料4に基づき、令和2年度緩和ケア在宅医療部会/在宅WG/研修WG 委員が確認された。

5. リレーフォーライフジャパン2020沖縄について

資料5に基づき、笹良委員よりリレーフォーライフジャパン及びセルフウォークリレーについて報告があった。

6. ELC 沖縄の活動について

当日資料に基づき、長野委員よりエンドオブライフ・ケア協会の活動報告があった。

ELC 協会は全国での基礎講座や医療者向けに地域学習会の実施、一般向けにいのちの

授業を実施している。専門家だけでなく、あらゆる立場の人が対人援助の基本を学び、現場から学び続ける仕組みづくり、誰でも学べる場所を作るのが目的であり、今年度は2月から11月にかけて7回 ELC 沖縄の活動が行われた。琉大医学部、与勝病院、中部病院にて「いのちの授業」を対面で実施。ZOOM でもオンライン講義や事例検討を実施。今後は、遠隔媒体を使った情報発信が必須になってくる。一方で、デジタルに慣れていない高齢者が地域で取り残されており、援助の手を差し伸べられる人材育成が急務となっているという報告があった。

今後の課題として、ファシリテーターの育成、基礎講座を安定して開催するためのバックアップ、時代のニーズに合った学習を取り入れていくことが挙げられた。

7.その他

笹良委員より、2021年2月27日(土)に群星の研修会を開催するという報告があり、講師等の協力依頼の呼びかけがあった。

協議事項

1.在宅医療ロジックモデルについて

資料7に基づき、増田委員より在宅医療ロジックモデルについて説明があった。増田委員より、今年度の在宅WGの年間活動計画が、このロジックモデルのどこに該当するのかを協議して頂きたい。今年度の進捗状況も踏まえて、今回と次回のWGで来年の計画を立てていきたいという意見があった。次回の会議で分野アウトカムと中間アウトカムについて協議することとなった。

2. 令和2年度の在宅ワーキングの年間活動計画の進捗状況について

資料8に基づき、以下の項目について協議が行われた。

(1) 患者へ在宅医療に関する適切な情報提供を行う

笹良委員より、コロナ時代のACPを作っていく必要があると思う(「ぬちしるべ」をコロナ軽症の高齢者に見せる等)。今後、在宅医療部会WGで「ぬちしるべ」の利用状況、ACPや命に関わる話の提供方法などを実践報告していきたいという意見があった。

(2) 医療者向けの勉強会を開催する

笹良委員より、勉強会のコーディネートをすることが本部会の役目で県医師会と喜納委員の役割になると思うという意見があった。

喜納委員より、E-FIELDについて介護現場にはアナウンスがあまり行き届かないという現状。かかりつけ医などが関わっていくのが大事だが、ケアマネージャーや相談業務従事者に広く普及していく必要があると思う。E-FIELDの中では難しいかもしれないが、在宅現場で病院が全然関わらない場合が多い。病院以外のところでACPを今後やっていきたいと

思っている。今後も各医師会での連携事業に落とし込み、研修会の開催をして頂いたらと期待できる場所という意見があった。

笹良委員より、群星沖縄の研修会を2021年2月27日(土)に開催することが決定した。エンドオブライフコミュニケーションとACPに関わる研修会をロールプレイとグループワークを中心に行う予定。対象は、群星の研修システムに入っている病院の研修医と医師。受講料は無料。今年度、緩和ケア研修会を開催できなかった施設に所属する研修医の履修必須項目の補填という名目で開催決定に至った。概ね2時間で出来るプログラムを作成しているという報告があった。

(3) 在宅医療に関する普及啓発活動

笹良委員より、在宅医療のエンドユーザーである高齢者は、メディアリテラシーを持っていないため、YouTubeはエンドユーザー向けではない。語り掛けてくれる人材が一番の情報源であり、口コミを重要視する。口コミの場合は、普及啓発する人材育成や、小学生でも理解できるような簡単なツールが必要であるという意見があった。

(4) 機能強化型在宅療養支援診療所を増加させる

喜納委員より、医師会から、これから開業する先生方への在宅取り組みへの推進と、病院から在宅医療の推進が必要だと思う。コロナ禍で在宅のニーズが増えており、那覇では在宅訪問診療所がパンクしている状況にあるので早く取り組まなければならないという意見があった。

笹良委員より、コロナで困っている診療所と病院の連携強化の中でアウトリーチの機会が増えていけるといいという意見があった。

大上委員より、八重山圏内で訪問診療を担っている診療所が少ない。今年はコロナの影響もあり、がん患者の看取りも視野に入れた訪問診療や在宅看取りの件数が多いという報告があった。

・緩和ケアマップについて

笹良委員より、他の市町村からもまとまった形でうちなーがんじゅうネットの緩和ケアマップを見ると分かり、ここに麻薬使用また処方可能かという項目が加わればいいよねと言う話だった。それを出して下さいとこの部会から頼んで、それが延びている。何の項目を載せるかという事にもなると思う。ソーシャルワーカーがどの先生に紹介したらいいのか、休日対応してくれるのか、紹介状を書く先の先生がいるのかどうか含めて判るといいなど。がん患者は4つぐらい病院を一人で回るので、それが滞り無いように、患者自身でも選択できるようになるといいなど思っている。それをサポートするための情報源としてあるといいなどという意見があった。

喜納委員より、緩和ケアに関する情報はがんじゅうネットで充実させていくのがいいかなど。沖縄県版の在宅マップもがんじゅうネットにリンクさせていくという形を取れたらいいのかなと思う。高山先生や新屋先生を中心とした在宅連携事業のWGチームでしっかり話し合っていないかと思っている。医師会にもこの件について確認してみるという報告があった。

・研修医の在宅医療カリキュラムについて

笹良委員より、今年からのカリキュラムで全ての研修医が198床以下の在宅支援病院か在宅支援診療所で1か月間同じ場所で研修を行うことが必須となった。在宅支援の先生達で振り分けてはいるみたいだが、一か月間は引き受けられないというのが多い現状。国としては研修のカリキュラムに入れることを推進しているので、それが義務化された。これからの在宅医療が中心となっていく世の中を支える為に、研修医は必ずやるという方向づけはされている。この部会で出来ることは、それを支える先生方のサポートや研修医の受入れが出来ない先生達への支援など。研修病院との協力体制や話し合いも必要だと感じたという意見があった。

喜納委員より、在宅医療のカリキュラムを持っておらず、独自で考えて実施しているが、在宅医療学会の方で何かカリキュラムが提供されているのかという質問があり、笹良委員より、まだ統一性はないと回答があった。

喜納委員より、他の在宅支援診療所にも受け入れて頂くように働きかけてみるということとなった。

・情報提供プラットフォーム形成について

喜納委員より、在宅医同士の集まりは各地区でやっていると思う。この部会でプラットフォームを作る必要はないと思う。どういう状態か調査するという形でいいのではないかという意見があった。

有賀先生より、開業医の先生たちが今集まるのも難しいと思うので、例えば、おきなわ津梁ネットワークのチャット機能の中で在宅ケアのグループを作り、意見交換会などを行うのはどうか。在宅のおきなわ津梁ネットワークは普及していない感じですか。という質問があり、喜納委員より、正直ほとんど普及していない。維持費が月5000円出ていく事と、それを活用できるかどうかという事で考えると難しい。多職種が連携できる仕組みにはなっているが、各事業所の数が膨大であり、事業所がセットアップなどフォローすることが厳しい。他職種という機能に関しては今一つかなと考えている。医療の中では良いツールだと思うので、在宅医や開業医同士の中だけに限っては使えると思うという意見があった。

笹良委員より、「こういう患者はこの地区で診てもらえるのか、こういうことできるのか」等の疑問を掲示板に挙げ、誰かが答えてくれるようなイージーアクセスという場があまり無いので、プラットフォーム的なものが何層かあってもいいと思う。階層別に機能が評価さ

れたものと、浅く誰でも入りやすいものなどの情報源があればいいなど。この部会で関わられるかは分からないが、医師会とかであればいいなと思っているという意見があった。

喜納委員より、アクセス性がないと、連携ツールは大変なのかなど。津梁ネットワークは患者情報などのセキュリティーを高くしないといけないが、チャット等のコミュニケーションツールと分けて考えないと、そこまでのセキュリティーは要らないと思う。アクセス性の部分はしっかり前に出して簡単には入れるようにしないといけないし、重要な情報に入る所はしっかりセキュリティーに掛けるという事が必要だと思う。LINE に漏れてもいいような情報を流すという事をグループが順守すれば、LINE などで作ったほうが連携は進むと思う。もっといいのが出来ればと思っているという意見があった。

・ 県医師会との活動

喜納委員より、新屋先生と高山先生にアドバイザーになっていただいて、在宅地域医療の地域包括ケア対策委員会がある。これが年 2 回程度の開催状況で、県医師会で在宅の話をする現場になると思う。全県的な問題に関してはここで投げているかなと思う。緩和ケアマップやプラットフォームについても県医師会との話の中で挙げていければと思っている。津梁ネットワークを落とし込めるか情報を伺いながら進めていきたいという報告があった。

4. 次回令和 2 年度第 4 回在宅ワーキングの日程について

日程：2021 年 3 月 31 日（水） 場所：ZOOM による Web 会議

5. その他

笹良委員より、ZOOM を使った退院前カンファレンスやホスピスに来る前の入院前面談などを行っている人はいますかという質問があり、有賀先生より、琉大病院のシエントではソーシャルワーカーを中心に ZOOM を使っている。患者の情報をどこまで共有するのかを事前に話しているという回答があった。

笹良委員より、ZOOM でのカンファレンスも可能と言ってくれる開業医や在宅医の先生がどのくらいいるのかという情報も欲しいという意見があり、喜納委員より、医師会の会議も ZOOM になっているのでおそらく多数の先生はできるのではないかと思う。今後は進めていくべきだと思うという意見があった。

令和2年度 第4回緩和ケア・在宅医療部会 研修ワーキング 議事要旨

日 時：令和3年2月3日(水)16:30~17:15

場 所：ZOOMによるWeb会議

出席者11名：三浦耕子（県立中部病院）、中村清哉（琉大病院）、足立源樹（那覇市立病院）、
笹良剛史（豊見城中央病院）、野里栄治（北部地区医師会病院）、林正樹（中頭
病院）、久志一朗（沖縄病院）、西原実（ハートライフ病院）、新里誠一郎（浦添
総合病院）、友利健彦（沖縄赤十字病院）、増田昌人（琉大病院）

欠席者3名：新屋洋平（中部徳洲会病院）、新垣亮太（県立宮古病院）、酒井達也（県立八重山病
院）

陪席者2名：神山佳之（県立南部医療センター・こども医療センター）、内間みなみ（琉大病院）

報告事項

1. 令和2年度 第3回 緩和ケア・在宅医療部会 研修ワーキング議事要旨について

資料1に基づき、令和2年度第3回緩和ケア・在宅医療部会研修ワーキング議事要旨が承認された。

2. 令和2年度緩和ケア研修会開催日程一覧について

資料2に基づき、令和2年度緩和ケア研修会開催日程一覧が確認された。

3. 令和2年度 沖縄県緩和ケア研修会の報告書について

(1) 県立中部病院(第2回)

三浦WG長より、資料3に基づき報告があった。2020年12月15日(土)に受講者19名（医師15名、看護師3名、理学療法士1名）で開催した。グループワークはフェイスシールド着用、パーテーションを設置し、コロナ対策も含めスムーズに実施できたと報告があった。

(2) 那覇市立病院(第3回)

足立副WG長より、資料4に基づき報告があった。2020年12月19日(土)に院内の受講者10名（医師7名、看護師3名）で開催した。今回一番気付いたのは、講師が突然消えることがあるという事。講師は予習が必要だったりするため、予め代役を考えておくことも必要と感じたという報告があった。

4. E-FIELDへの参加について

笹良委員より、資料5に基づき報告があった。九州・沖縄地区では2020年12月13日にWEBで開催された。沖縄からは4チーム参加があり、講義は前撮りした教材で行い、グル

ワークショップやロールプレイは、ファシリテーターを配置して実施。スタッフのミーティングもWEBで行い、ZOOMの機能をフル活用したという報告があった。感想等まだ結果が出ていないので、結果がでたら共有することとなった。

三浦委員より、WEBでファシリテーターをするのはどのような感じになるのかという質問があり、笹良委員より、ロールプレイ時に受講者は、グループごとにZOOMのブレイクアウトルームに入る。ファシリテーターはZOOMの管理者によって各グループのルームに割り振られて、ファシリ1名で2グループ担当する。ファシリテーターはディスカッション実施中、2つのルームを移動しながら、ディスカッションに加わり、アドバイスや時間進行を行う。役割としてはPEACEのロールプレイ時のファシリテーターと同じという回答があった。

5. 群星沖縄臨床研修センター意思決定支援講習会について

笹良委員より、資料6に基づき報告があった。

2021年2月27日（土）に群星沖縄主催の「協同意思決定に必要な医療対話スキル研修」をZOOM開催する。緩和ケア在宅医療部会を後援とするため、ファシリテーターの協力を呼びかけた。

6. その他

特になし。

協議事項

1. 緩和ケア研修会の開催について

(1) ハートライフ病院（第4回）

資料7に基づき紙面報告があった。

(2) 南部医療センター・こども医療センター（第5回）

神山先生より、資料8に基づき説明があった。2021年2月20日（土）に開催する。受講者は医師のみで12名（院内10名、院外2名）参加予定との報告があった。

2. 来年度の研修会について

資料9に基づき、琉大病院は2021年9月18日（土）に開催予定であると報告があった。増田委員より、琉大病院が第一回開催ではなくてもいいと思う。新型コロナが下火になれば、7月、8月に開催する施設が第一回目でもいいと思うという意見があった。

次回のWGまでに各施設で開催日程(案)を決めて報告することとなった。

3. 来年度のWG長、副WG長の選出について

来年度のWG長は、中村委員、副WG長は足立委員と三浦委員で承認された。

4. 緩和ケア・在宅医療部会研修 WG 委員について

来年度も今年度と同じメンバーで実施し、参加希望者がいればその都度受け入れるという事で承認された。

5. 次回令和3年度第1回緩和ケア・在宅医療部会 研修ワーキングの日程について

2021年5月頃 WEB 開催予定。後日、調整さんにて日程調整をすることとなった。

6. その他

笹良委員より、緩和医療学会が2021年6月に横浜で開催される。その後、全国各地の医療学会が開催される。現段階では、どの地区もWEB開催予定で、沖縄は来年の11月か12月に開催予定という報告があった。WEB開催となった場合、研修案やアイデア等があれば、教えて頂きたいという意見があった。

第4回沖縄県がん診療連携協議会緩和ケア在宅医療部会 在宅ワーキング議事要旨

日 時：令和3年3月31日（水）17：00 ～ 18：00

場 所：ZOOM（WEB会議）

出席者：6名 喜納美津男（きなクリニック）、宮城愛子（訪問看護ステーションアレグリア）、笹良剛史（豊見城中央病院）、金城隆展（琉大病院）、東恩納貴子（那覇市立病院）、大上永利子（八重山病院）増田昌人（琉大病院）

欠席者：6名 徳盛裕元（すまいるサポート株式会社）、荷川取尚樹（花あかり合資会社）朝川恵利（宮古病院）成田奈緒子（北部地区医師会病院）、嶺井朝美（北部地区医師会病院）長野宏昭（中部病院）

陪席者：2名 有賀拓郎（琉大病院）、下地清美（琉大病院）

報告事項

1. 令和2年度 第3回緩和ケア・在宅医療部会在宅ワーキング議事要旨

資料1に基づき、令和2年度第3回緩和ケア・在宅医療部会在宅ワーキング議事要旨が承認された。

2. 令和2年度 第4回緩和ケア・在宅医療部会議事要旨

資料2に基づき、令和2年度第4回緩和ケア・在宅医療部会議事要旨について報告があった。

3. 令和2年度 第4回緩和ケア・在宅医療部会研修ワーキング議事要旨について

資料3に基づき、令和2年度第4回緩和ケア・在宅医療部会研修ワーキング議事要旨について報告があった。

4. 令和2年度緩和ケア在宅医療部会/在宅WG/研修WG 委員名簿一覧

資料4に基づき、令和2年度緩和ケア在宅医療部会/在宅WG/研修WG 委員が確認された。

5. 患者の意向を尊重した意思決定のための研修会(E-FIELD)について

資料5に基づき、笹良委員よりに E-FIELD について報告があった。今年は九州ブロック、四国ブロックなど別々に WEB で開催された。沖縄からは 3 チーム参加し結果の報告待ちとなっている。

6. 群星沖縄研修会について

資料6に基づき、笹良委員よりに群星沖縄の研修会について報告があった。コミュニケ

ーションについての講義と実習、ACP のビデオをみてのロールプレイを行った。感想は好意的なものが多かったが WEB 環境の整備が今後の課題となった。今後も継続的に行っていきたいが来年の予定は未定となっている。

7.その他

第 3 回日本緩和医療学会九州支部学術大会が 2021 年 11 月 20 日(土)に WEB 開催される。

協議事項

1.在宅医療ロジックモデルについて

資料 7 に基づき、増田委員より在宅医療ロジックモデルについて説明があった。今後の施策についてディスカッションを行い、笹良委員より、患者さんをどこにつなげたらいいか、顔が見えるカンファレンスをしっかり行い、自治体の対応能力の整備リストなどがあると分かりやすい、リアルな空き状況を把握できらいいと意見があった。

各診療機関の空き状況の公開についてはまず那覇市から始めてうまくいけば全県へ移行できるように検討中と喜納委員から報告があり、県の在宅や医師会のミーティングの時に検討事項として挙げて進めていきたいとのことだった。また、笹良委員より今後コロナに絡めて進めていけたらよいと意見があった。

宮城委員より沖縄県訪問看護支援事業により、訪問看護ステーションの受入れ状況は 1~2 週間に一度更新して訪問看護ネットおきなわにアップしていると報告があり、がんじゅうネットにリンクさせたらどうかと笹良委員・増田委員から意見があった。

施策について意見があれば 7/21(水)までにメールで連絡を行い、その後施策シートを事務局で作成を行う。

在宅の治療について気軽に質問ができるような掲示板など作成できるのか可能かと笹良委員から質問があり、増田委員より希望があれば可能と回答があった。

2. 令和 2 年度の在宅ワーキングの年間活動計画の進捗状況について

資料 8 に基づき、以下の項目について協議が行われた。

- (1) 患者へ在宅医療に関する適切な情報提供を行う
 - (2) 医療者向けの勉強会を開催する
 - (3) 在宅医療に関する普及啓発活動
 - (4) 機能強化型在宅療養支援診療所を増加させる
- (1)~(4)引き続き取り組んでいかななくてはいけない。
- (3)普及啓発は口コミで情報提供してくれる人材の育成、簡単なツールを作成したりしたいが取り掛かれていない (4) 医師会の協力が必要

何かあれば増田委員へ連絡いただければ動けるところもあるのでお話しくださいとのことだった。

3.次年度ワーキング長・副ワーキング長の選出について

ワーキング長：喜納委員、副ワーキング長：朝川委員・宮城委員で次年度も継続することとなった。

4.次年度ワーキング委員の選定について

次年度もこのまま継続することとなった。

5.次年度の年間活動計画について

特になし

6. 次回令和3年度第1回在宅ワーキングの日程について

日程：2021年6月30日（水） 17:00～ 場所：ZOOMによるWeb会議

第5水曜日のある月

7.その他

那覇市立病院の吉澤看護師がご退職となり、東恩納看護師が委員を引き継ぐこととなった。

八重山病院大上看護師が今年度退職されることとなった。後任は南部医療センターの緩和医療の認定看護師が引き継がれるとのことだった。